

令和6年3月31日

令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人中村学園
静岡福祉医療専門学校

文部科学省「専修学校における学校評価について」による学校評価ガイドラインをベースとして自己点検・評価を実施してまとめた「令和4年度自己評価書」を元に、令和5年3月16日、学校関係者評価を実施した。

文部科学省「専修学校における学校評価について」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm

専修学校における学校評価ガイドライン

令和5年度学校関係者評価委員及び事務局

<関連団体>

鳥羽 茂 氏 特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会 事務局長

<保育関係>

白鳥 智美 氏 学校法人中村学園 第一ひかり幼稚園 園長

<卒業生>

川崎 誠之 氏 社会福祉法人駿河会 特別養護老人ホーム晃の園
相談員兼ケアマネジャー

石間 洋美 氏 一般社団法人日本顧問介護士協会 理事長

<事務局：本学教員>

中村 徹 理事長・校長

有賀 浩 副校長・教育部長

富田 順子 教頭

中村 健太郎 教育改革推進室室長

原木 伴美 教務課長

後藤 明子 子ども心理学科 学科長

磯野 博 総合福祉学科 学科長

三嶋 秀子 介護福祉学科 学科長

鈴木 ほまれ 視能訓練士学科 学科長

1. 評価項目別学校関係者評価

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

(1) 教育理念・目標

| 評価項目 | 4段階評価 |
|---|-------|
| ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） | 4 |
| ・学校における職業教育の特色は何か | 4 |
| ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 |
| ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 4 |
| ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 |

① 課題

- ・入学時だけでなく、「建学の精神」と「校訓」の具現化に向けた日々の指導を行う。
- ・「コミュニケーション力」「人間力」を高める為に、学内だけでなく学外の方との接点を多く持つことで各々が向上できる機会を作る。
- ・特に「創造する力」の育成に力を入れていきたい。
- ・「挨拶を基調とした全人教育」を目指している。挨拶が自然にできるような学生を育てていきたい。

② 今後の改善方策

- ・定期的に SHR やゼミナール等において、日々の時事問題と重ねながら「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の具現化に向けた課題を確認する。
- ・後援会 総会、学級懇談会や不登校気味な学生においては、「建学の精神」、「校訓」、「教育方針」の意味を周知し、学校へ入学した意味を再確認し、学期などの節目も必要に応じて保護者への連絡を行う。
- ・介護福祉学科と総合福祉学科が合同で看護学校との合同授業を実施している。このような他学校との合同授業を増やしていき、他者との学びの機会を作っていきたい。
- ・まずは自ら情報を得ようとする力、そして得た情報の取捨選択、真似するのではなく参考にして新たなものを創造する訓練等グループワークを通じて行っていきたい。
- ・学生に話をしたときは出来るようになるが、しばらくすると忘れてしまうものもある。引き続き声をかけていきたい。

③特記事項

- ・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

| 評価視点 | 4段階評価 |
|---------------------|-------|
| ①自己点検・自己評価結果が適切かどうか | 4 |
| ②背景や課題への認識が適切かどうか | 4 |
| ③改善方策としての取組みが適切かどうか | 4 |

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・総合福祉学科、介護福祉学科と看護学校との学校間の交流が素晴らしいと思います。
- ・先日、学生の発表を見学する機会をいただき、学生の学んでいる内容を理解することができた。発表を聞いて、ダイバーシティインクルージョンやSDGsが教育の中に組み込まれてきていることを実感している。自分の考えを言語化するという取組が非常に素晴らしいと思う。雇用側も人手不足だが変な人材は採用したくないという気持ちが強く、採用基準もシビアになってきている中で専門学校からの就職を望まれる声が挙がることは素晴らしいことだと思う。

(2) 学校運営

| 評価項目 | 4段階評価 |
|---|-------|
| ・目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4 |
| ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 |
| ・人事、給与に関する規程等は整備されているか | 4 |
| ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 |
| ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 |
| ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4 |
| ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 |

(学校関係者評価委員による評価)

| 評価視点 | 4段階評価 |
|---------------------|-------|
| ①自己点検・自己評価結果が適切かどうか | 4 |
| ②背景や課題への認識が適切かどうか | 4 |
| ③改善方策としての取組みが適切かどうか | 4 |

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(3) 教育活動

| 評価項目 | 4段階評価 |
|--|-------|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 |
| ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 |
| ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか | 4 |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか | 3 |
| ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 |
| ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 |
| ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 |

① 課題

- ・日課の変更の目的や意義を学生と教員がよく理解し、円滑な移行を行う。
- ・外国人留学生の実習に向けて、今後も引き続き受け入れ態勢を強化してもらう。
- ・今年度より新カリキュラムに基づいたソーシャルワーク実習に変更となり、実習要綱や評価表についても以前のものから変更を行った。実習指導者には実習内容や評価方法について説明は行っているが、実習先によってプログラム内容や評価方法に差が見られた。
- ・各教員が専門分野に関する知識・技術の向上を図るのはもちろんだが、プラスワンの知識を積極的に学ぶ機会を作りたい。
- ・社会人講座に3年生の学生をアシスタントとして参加させた。他者に教えることで学びの振り返りとなり、また社会人に対しても学ぶことの重要性を伝えることができおり、来年度も継続して実施したい。

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準が教務主導により、より明確になった。シラバスに評価基準が反映されていない矛盾が生じた。 ・視能訓練士学科は、来年度3学年すべてが埋まると必要な専任教員数は6名となる。 |
| <p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科内で適切な授業評価を実施したい。また教員への要望に向き合っていく。 ・習指導者と教員との共通認識を深めるための勉強会の実施を検討したい。 ・ICTの活用や介護ロボットの活用が現場でどのようになされているのかを含め、今の介護・福祉業界を体感するために教員の現場研修を実施していきたい。 ・来年度より全科目でシラバスと評価の整合性を確認していきたい。 ・教員経験がない新人職員への指導を充実させていく。実習先等に声掛けを行うことで教育現場への興味を持って頂く。 |
| <p>③ 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |

(学校関係者評価委員による評価)

| 評価視点 | 4段階評価 |
|---------------------|-------|
| ①自己点検・自己評価結果が適切かどうか | 4 |
| ②背景や課題への認識が適切かどうか | 4 |
| ③改善方策としての取組みが適切かどうか | 4 |

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・なんのために、というところが重要である。仕事にしても同じ。学生にとっては未来が見えにくいので、ビジョンを見せ続けていくことが必要。
- ・リアルなイメージを持たせていくこと 今の世の中だからこそ「本気、ほんもの」しか伝わらない。
- ・時間がかかっても、ちゃんと向き合うことが必要だと考える。

(4) 学修成果

| 評価項目 | 4段階評価 |
|--|-------|
| ・就職率の向上が図られているか | 4 |
| ・資格取得率の向上が図られているか | 4 |
| ・退学率の低減が図られているか | 3 |
| ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 |
| ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 |

| |
|---|
| <p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学後、前期の終了までに退学者が出てしまう |
|---|

- ・就職率は100%であるが、介護福祉士国家試験の合格率が100%に至らない。
- ・卒業後のキャリアアップに向けての支援に偏りがある。・求人の時期は早まる一方、学生の就職活動が遅れ気味になっている。
- ・就職率は100%であるが、介護福祉士国家試験の合格率が100%に至らない。
- ・卒業後のキャリアアップに向けての支援に偏りがある。
- ・介護実習終了後に専門職に対する不安や自信のなさから進路変更を考える学生がみられた。実習は実践の学びの場であることを理解させる、気持ちを前向きにするための個別指導を担当及び学科で行う必要がある。
- ・卒業生が現在どのような活躍をしているのかデータ化しておく必要がある。
- ・退学については、前期終了時に毎年出ている。1年は学業不振、2年は実習に参加しての進路変更が傾向として見られる。3年の退学はない。
- ・昨年度に比べ、基礎学力の低下がみられる。学習面を原因とする退学を予防する必要がある。

②今後の改善方策

- ・就職希望を早期に固め、希望先の求人状況に合わせた活動と準備ができるようにする。
- ・介護福祉士国家試験対策の各種ツールを駆使し、個々の学生に合った試験対策ができるようにする。
- ・卒業後の進路変更やキャリアアップの希望が掴めるよう、SNS や同窓会ホームページを活用する。
- ・総合福祉学科の学生において、資格取得の為だけに3年制を選択すると、学習や実習に対するモチベーションが上がりにくい。細かな場面においても成功体験を多く積み、自分の将来像が明確化するよう多種多様な卒業生や業界人の話が聞ける機会を、リモートなどでも増やしていき、学生の意欲向上につながる、面白さを感じる学びの場を提供していく必要がある。
- ・総合福祉学科で、基礎学力固めのために、来年度より4限の時間を利用し、学力に不安がある、実習準備に時間がかかる、資格取得に課題がある学生を対象とした補習コースを実施していきたい。
- ・今年度の子ども心理学科の退学者は、5%弱となる予定。学生が本学の機能を十分に生かし、卒業してくれるよう、来年度も教育体制(個別指導・相談体制)の充実を図りたい。
- ・視能訓練士学科の学生で、専門教科だけではなく、学力面で不安がある学生には算数の補習を引き続き行う。

③ 特記事項

- ・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

| 評価視点 | 4段階評価 |
|---------------------|-------|
| ①自己点検・自己評価結果が適切かどうか | 4 |
| ②背景や課題への認識が適切かどうか | 4 |

| | |
|---------------------|---|
| ③改善方策としての取組みが適切かどうか | 4 |
|---------------------|---|

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・退学者の退学理由の中で「思っていた学習内容と違っていた」とい学生がいた場合、どのような対応をするか苦慮するのではないか。その場合は、目標を明確に見せ続けていくことが大切。特に学生は将来をイメージできない学生もいるので、具体的で鮮明なイメージを持たせ続けられるかが重要。教える側の熱量を伝えることも大切では。

(5) 学生支援

| 評価項目 | 4段階評価 |
|--|-------|
| ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4 |
| ・学生相談に関する体制は整備されているか | 4 |
| ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 4 |
| ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 |
| ・課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| ・学生の生活環境への支援は行われているか | 4 |
| ・保護者と適切に連携しているか | 4 |
| ・卒業生への支援体制はあるか | 3 |
| ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 |
| ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 |
| <p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関・団体の人材養成に対するニーズが十分に掘り起こせていない。 ・中学・高校とのキャリア教育の連携が滞っている。 ・学生への経済的支援を一層進めなくてはならない。 ・学生に対する個別支援は、問題対応へのウエイトが高く、主体性・可能性を伸ばす支援に傾注しきれていない。 ・経済的支援で前期が学生に負担が大きい。 ・精神的な問題、経済的な問題を抱えている学生が増えてきている。学生が相談しやすい環境を整え、フォロー体制を強化していく。 | |
| <p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、教育内容に反映する。 ・個々の中学・高校に対するアプローチに留まらず、ボランティア協会などと連携し、出前講座などを企画していく。 ・引き続き、初任者研修や実務者研修を複数講座行っていく。 ・引き続き、通信制高校と連携した出前講座を行っていく。 | |

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・CAN スカラシップを十分に活用し、学生の主体的な意欲を引き出した活動ができるよう支援していく。 ・実習先や就職先を中心にし、人材養成に対するニーズを引き出し、本学独自の講座を企画していく。 |
| <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |

(学校関係者評価委員による評価)

| 評価視点 | 4段階評価 |
|---------------------|-------|
| ①自己点検・自己評価結果が適切かどうか | 4 |
| ②背景や課題への認識が適切かどうか | 4 |
| ③改善方策としての取組みが適切かどうか | 4 |

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(6) 教育環境

| 評価項目 | 4段階評価 |
|---|-------|
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 |
| ・防災に対する体制は整備されているか | 4 |

| |
|--|
| <p>①課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事である海外研修等については実施予定であったが、物価や燃料費の高騰、円安の影響等考慮し、今年度も国内で実施した。 ・視能訓練士学科は、カリキュラム改訂に伴い必要機器が追加となる。 |
| <p>②今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子福祉合同研修であったが、参加した学生自身は、それぞれの職業的アイデンティティを軸に学びがあり、有意義な時間となった。 ・施設へ静岡県視能訓練士の会を通して、不要機器(カリキュラム改訂で必要となる)を譲って頂けないか声掛けを行なった。 |
| <p>③特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外研修就学旅行の実現に向けた具体的な検討を行っていく。 |

(学校関係者評価委員による評価)

| 評価視点 | 4段階評価 |
|------|-------|
|------|-------|

| | |
|---------------------|---|
| ①自己点検・自己評価結果が適切かどうか | 4 |
| ②背景や課題への認識が適切かどうか | 4 |
| ③改善方策としての取組みが適切かどうか | 3 |

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

| 評価項目 | 4段階評価 |
|------------------------------|-------|
| ・学生募集活動は、適正に行われているか | 4 |
| ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 |
| ・学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

①課題

- ・各種ツールを駆使して、学科の特長のアピールを行う。
- ・本学が輩出する人材育成に関して、高校生などが持つニーズを開拓する。
- ・企画広報スタッフと、学科の魅力、特長ある授業の内容を共有する。
- ・介護職希望の学生の取り込みを開拓しなくてはならない。(海外等)
- ・オープンキャンパス時には在校生がいることで、参加者気が軽に話せる環境づくりをしている。オープンキャンパスに参加してくれれば、チラシや動画等で学科の特徴を伝えられているが、オープンキャンパスに行ってみようと思わせる手段をもっと工夫しなければならない。
- ・学生募集活動について、学科として SNS を活用した情報の拡散を行った。しかし、目標数には届いていない。
- ・学科のオープンキャンパス参加者は増加しているものの、定員充足には至っていない。視能訓練士の知名度が低いことも一つの要因となっている。

②今後の改善方策

- ・外国人留学生にも本学の情報が適切に伝わるよう、外国人卒業生から口コミで学科の特長と卒業後の成果を PR してもらうようにする。
- ・外国人留学生は口コミで広がるのが大きいので、卒業生から学科の特徴と卒業後の成果を PR してもらうようにする。
- ・海外からダイレクトに入学するシステム作りをする。
- ・在校生に気軽に質問できるツールを電子情報カレッジの学生と作成した。来年度以降在校生が上手く運営できるようにしていきたい。
- ・学生主体の SNS の更新が実習等をはさむと滞ってしまう。定期的に発信することができるよう、来年度は SNS 発信日を決めて学科として取り組んでいきたい。
- ・高校への出前出張の講座を増やしていきたい。
- ・SNS の効果は出ていると感じている。これからも、本学を知り、ここで学びたいと実感していただけるような内容をつくり、発信していきたい。

・視能訓練士の啓蒙活動に力を入れているが、充分ではない。オープンキャンパスでは学生が生き活きと教える姿を見せることで学園の学びをイメージさせている。

③特記事項

・特になし

(学校関係者評価委員による評価)

| 評価視点 | 4段階評価 |
|---------------------|-------|
| ①自己点検・自己評価結果が適切かどうか | 4 |
| ②背景や課題への認識が適切かどうか | 4 |
| ③改善方策としての取組みが適切かどうか | 4 |

(学校関係者評価委員からの意見)

・特になし

(8) 財務

| 評価項目 | 4段階評価 |
|---------------------------|-------|
| ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| ・財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| ・財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

(学校関係者評価委員による評価)

| 評価視点 | 4段階評価 |
|---------------------|-------|
| ①自己点検・自己評価結果が適切かどうか | 4 |
| ②背景や課題への認識が適切かどうか | 4 |
| ③改善方策としての取組みが適切かどうか | 4 |

(学校関係者評価委員からの意見)

・特になし

(9) 法令等の遵守

| 評価項目 | 4段階評価 |
|--------------------------------|-------|
| ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |

| | |
|------------------------|---|
| ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 4 |
| ・自己評価結果を公開しているか | 4 |

| |
|--|
| ①課題 ・個人情報保護法の理解と周知徹底を図る。 |
| ②今後の改善方策 ・法令遵守に加え、職業倫理の観点から、個人情報保護の重要性を教員、そして学生に日々、周知徹底していく。 ・SNS などによる個人情報漏洩の危険性とその防止方法を具体的に周知する。 |
| ③特記事項 ・特になし |

(学校関係者評価委員による評価)

| | |
|---------------------|-------|
| 評価視点 | 4段階評価 |
| ①自己点検・自己評価結果が適切かどうか | 4 |
| ②背景や課題への認識が適切かどうか | 4 |
| ③改善方策としての取組みが適切かどうか | 4 |

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

| | |
|--|-------|
| 評 価 項 目 | 4段階評価 |
| ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4 |
| ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 |
| ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 4 |

| |
|---|
| ① 課題 ・学生・教員で小中学生に対する福祉教育を行う機会を増やし、福祉のしごとに対する種まきを行っていく必要がある。 ・地域の方に対する福祉の相談窓口、アクティブシニア向けの講座等の開設ができないかと模索している。 ・子ども心理学科の付帯施設として「小規模保育園」を運営している。所在する町内会長様、民生委員様とも情報交換しながら、すみやすい地域づくりを目指している。ただし、教員や学生と地域のつながりができていない。 |
| ② 今後の改善方策 |

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・講座や地域での相談事等のニーズについて、地域包括支援センターの方とも検討を進めていきたい。 ・介護入門研修を実施し、ニーズがまだまだあると感じた。技能実習生向けや就労支援をプラスした講座も検討していきたい。 ・地域に根付いた専門学校を目指し、専門学校の立地を中心としたボランティア活動等の掘り起こしと学生の参加(地域と学生とのつながり)を構築したい。 |
| <p>③ 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |

(学校関係者評価委員による評価)

| 評価視点 | 4段階評価 |
|---------------------|-------|
| ①自己点検・自己評価結果が適切かどうか | 4 |
| ②背景や課題への認識が適切かどうか | 4 |
| ③改善方策としての取組みが適切かどうか | 4 |

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・学科ごとの活動だけでなく、学校として地域とのつながりがあるといいと思います。

(11) 国際交流

| 評価項目 | 4段階評価 |
|--------------------------------------|-------|
| ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | 3 |
| ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | 3 |
| ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | 4 |
| ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 4 |

| |
|---|
| <p>① 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生を受け入れているが、学習支援、生活指導の課題の整理は途上である。 |
| <p>② 今後の改善方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生支援の体制、特に経済的支援の体制を整備し、留学生が学び易く、成果が出せるような環境整備を行っていく。 |
| <p>③ 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし |

(学校関係者評価委員による評価)

| 評価視点 | 4段階評価 |
|---------------------|-------|
| ①自己点検・自己評価結果が適切かどうか | 4 |

| | |
|---------------------|---|
| ②背景や課題への認識が適切かどうか | 4 |
| ③改善方策としての取組みが適切かどうか | 4 |

(学校関係者評価委員からの意見)

- ・学校以外の団体とも協力体制が取れるといいと思います。

以 上